

カンボジア 2008 年人口センサス試験調査(Pilot Census)の実施状況(メモ1)
- Battambang 州における試験調査 -

1 . 試験調査の実施者及び同行者

(1) Kampong Sambuor Village

Mr. Yem Suong, the retired Director, NIS (Kampong Sambuor Village, Supervisor)

Mr. Lay Sokun, Staff, NIS (Kampong Sambuor Village, Enumerator)

Commune Chief of Samraong Knong

Village Chief of Kampong Sambuor

Mr. Tiev Choulong, Director of Planning Department, Battambang

Mr. Kim Net, Bureau Chief, National Institute of Statistics (NIS, Counterpart)

Mr. F. Nishi, Chief Advisor

Ms. Takako Kanamuro, JICA Expert

(2) Chumnik Village

Mr. Chan Nipol, Deputy Director, NIS (Chumnik Village, Supervisor)

Mr. Khem Sovann, Staff, NIS (Chumnik Village, Enumerator)

Village Chief of Chumnik

Mr. Kim Net, Bureau Chief, NIS (Counterpart)

Mr. F. Nishi, Chief Advisor

Ms. Takako Kanamuro, JICA Expert

2 . 試験調査への同行の日時

(1) Kampong Sambuor Village

2007年3月1日 午後2時～

(2) Chumnik Village

2007年3月2日 午前9時～

3 . 試験調査の概要

カンボジア計画省統計局(NIS)は、2008年3月3日現在でカンボジアの全国民(外国人を含む)を対象とした人口センサスを実施する予定である。2008年人口センサスは、1990年のカンボジア和平成立以後、1998年以来第2回目となる。

今回の試験調査は、2008年人口センサスの丁度1年前に実施され、最後の試験調査となる。その実地踏査は、建物・世帯名簿の作成(House Listing)、調査票記入(Enumeration)の順に実施され、House Listingは2月26日の週、Enumerationは3月5日の週に、Battambang州を含め5つの州で実施されることになっている。

今回出張したBattambang州は、首都Phnom Penhから約290km北西に位置し、タイ国境に接する穀倉地帯であり、カンボジアの5大州の1つとなっている。Battambang州には、上述のとおり、3月1日から2日にかけて出張したので、House Listingに同行することが主な目的である。

House Listingでは、調査区設定時(2006年5月～)に作成した調査区要図(EA Map)を基に各調査区の全建物・世帯を訪問し、建物・世帯名簿(Form A)に記入する。併せて、House Listingの対象となった目印として、すなわち、次のステップであるEnumeration時に対象建物・世帯を容易に識別できるようにするために、建物・世帯番号が記入された人口センサスのステッカーを貼付する。また、EA Mapに各建物の位置を追加記入する。

4. 試験調査の実施状況

(1) Kampong Sambuor Village

同 Village のうち、EA No.3 の House Listing に同行した。EA No.3 は、Battambang 市の中心部から車で 5 分程度の位置にある。都市部に属しており、河川に面して住宅が密集している地域である。田畑に隣接している住宅はないが、鶏などの家畜を飼育している住宅はある。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

指導員及び調査員は NIS の OB 及び現役職員であった。

世帯人員が 18 人もいる世帯があった。その世帯では、世帯人員を聞かれるとカウントし始めたことをみると、普段から人数を把握していないことがうかがえる。

1998 年人口センサスのステッカーが、玄関口に未だに貼付されたまま残っている住宅もあった。

調査区要図がかなり大まかに書かれていた。ただし、実地踏査に支障はなかった。

実地踏査の途中で降雨があり、中断を余儀なくされた。

Village Chief 及び Commune Chief が実地踏査に同行した。

指導員及び調査員の手当は、約 USD200-/14 日である。

(2) Chumnik Village

同 Village のうち、EA No.2 の House Listing に同行した。EA No.2 は、Battambang 市の中心部から車で 10 分程度の位置にあり、Phnom Penh - Battambang を結ぶ幹線道路に面している。都市部ではないが、住宅に畑、家畜小屋、作業場や商店が併設されている住宅が多く、住宅と住宅の間に十分な空間がある地域である。世帯数は 110 世帯。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

この調査区も、指導員及び調査員は NIS の現役職員であったため、カウンターパートに対して、一般人も試験調査の調査員として試してみるべきとの提言を行った。

建物・世帯名簿の建物の用途欄に単純な記入誤りがあったため、カウンターパートに指摘したが、NIS の現役職員である調査員でさえ、理解もしくは調査内容の把握が不十分であることが伺えた。

本調査区内に母子世帯（夫が死別）があり、子どもの数は 8 人であった。カウンターパートの言では、カンボジアでは母子世帯が目につくので、母子世帯支援政策の基礎資料として、今回の人口センサスでは母子世帯に関する結果表を充実させる必要があるとのこと。同感であるが、現在地主義のカウント方法(de facto)では、普段の世帯構成の把握は困難である。指導員が人口センサスのステッカーを貼付していた位置は、外から一見して分かる位置であったが、雨の場合には直接雨に当たる場所であったため、Battambang 州の豪雨や後続の標本調査時の利用を考慮すると、日差し等のある場所の方が適切であることをカウンターパートに指摘した。

生後 3 日の嬰兒を世帯人員の 1 人としてカウントし忘れそうになった世帯があった。

Village Chief が同行していないと、回答をためらう世帯があった。（Village Chief は途中から実地踏査に加わった。）